山形県南陽市ホテルプロジェクト 「四季南陽」

ストーリー

人口3万2千人が住む自然豊かな山形県南陽市。9百年続く赤湯温泉日本の桜百景にも選ばれているからす烏帽子山公園自然豊かなこの場所が抱えている問題はハイジアパーク、オープンから30年地元の人に愛されていましたが時代の流れに残されていた。再生事業と共に地域に根付く場所を作るプロジェクトである。

ポイント

- ・いや、実際自分たち行かなくない?
- ・いいことって外の人はわからない
- ・体験できる事の重要性

企業名	KEN OKUYAMA DESIGN
ターゲッ	ト 若者
制作物	体験型企画

00 Start 南陽ガチャ

初めにホテルがって書 いてったと思います。 それは間違っていない です。

ただ解決しなければな事のはいい問題、地域の層のまと繋ぐれを解決しい解決しいないである。これをおチームはホテルじゃないのであるがある。 があるとないが南にないのであるがある。 ためにいてのないが南にないできるがある。 がある。

南陽ガチャ

人と人を結ぶ新しい体験の形。各コースに別れたガチャを引いてもらいチケットに記された体験をしてもらう。

■ホテルだけでは難しい







01 Research 南陽市ってどんなところ?

南陽市



人口 3万2千人 温泉や桜など豊かな自然に恵まれた 場所。ここならではのアミューズメ ント施設もある。



03 Research じゃあなんで若者は来ないんだろう

別にアクセスが悪い場所ではない赤湯駅に新幹線が泊まるので2時間でいける距離なのでも較的に行きやすい場所ではある。下手なスキー場とかよりは少ななを表し、

なんで来ないんだろう これはすごいむずかし いこと。



Q. じゃあ魅力が何もない場所なのか?

A. 全然ある





先ほど南陽市について調べたが改めて見ると全然ある。パラグライダーとかこんなに近い場所でできる場所はない。食事も温泉もある。何故来ないのか?

■「ヘーそうなんだ」で終わる





データを検索しただけでは、「知る」ことはできても「触れる」ことはできない。 つまり「歴史」「文化」などの地域特有の「奥深さ」に触れることなく終わってしまう。

> インターネットによって利便性は上がったが 全て同じ情報というひとくくりになっている。

05 Solution まずは知ってもらうことから



南陽市を認知する

町と関係を作る

地方の人とつながる

街について認知し次に一歩踏み込んだ体験をすることで街と関係をつくる。 さらに濃い体験をすることで、地元の方と繋がりを持つ。段階的に街に親 しみを持たせることで街を賑やかにし、南陽市の関係人口を増やす。 若者になじみがあるものガチャガチャ今の時代ソーシャルゲームで当たり前の世に引かれています。

そんな若者たちに対し てガチャというランダ ム要素不確定要素を与 えることで若者に興味 を持ってもらおうとい う流れの企画です。



人と南陽をむすぶ、新しい<mark>『体験</mark>』の形。コースごとに分かれたガチャを引く。 そして実際に南陽に行って、チケット書かれている体験をしてもらおうというもの。

3つのコース しる つながる 数時間から 当日できる 数日から 数週間かける 一か月以上

メリット

利用者

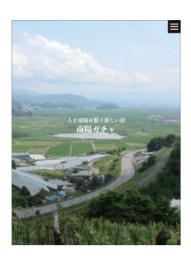


- ・初めてのことに挑戦するワクワク・ドキドキに出会える
- ・新しいつながりが生まれ、コミュニケーションが豊かに
- ・普段はしない・できない体験から、新しい視点が見える

南陽市



- ・各地から人が訪れることで、街やお店の認知度が高まる
- ・他の街の人たちとつながり、新しいアイデアが生まれる
- ・南陽市の関係人口が増え、活性化する









動画シナリオ制作









全容

田中さん夫婦は年末に 1 週間ほど休暇を取り場所を決めず に行き当たりばったりで旅行をしていました。

その旅行途中で南陽市の道の駅に休憩がてら寄った時に南陽ガチャを見つけました。何か体験などができるとことだったので特に予定を決めていなかったので引いてみることにしました。出てきたのは「四季南陽ホテル」なんだかわかりませんが田中さん夫婦は、面白半分で行ってみることにしました。

ホテルについてから聞くとなんと料理人さんが田中さん夫婦の為だけの料理を作ってくれるそうです。詳しく聞くと一日3回買い出しの時に一緒に買い出しに行き南陽市の食の事を良く知れる体験のようです。実際に市場に行くと普段は見かけないわらびがありあまりわからないと伝えたら料理人さんが快く食べ方などを教えてくれました。さらにそのわらびをメニューにも使ってくれたのでどのような料理に使うか知ることが出来ました。翌日ワイナリーの案内をしてもらいました。この体験にはワインのテイスティングも含まれているとのことでしたので実際に行きました。ワイナリーのスタッフさんが1人ついてくれ1つ1つ丁寧に味の説明などをしてくれ色々飲み比べた中でお土産のワインを買いました。

次の日、南陽市をでて次の所に向かう田中さん夫婦は今度 の休暇ではまだ知らない南陽を知りにやってきたいと 言っていました。

